

# NEWS

**JAAF**  
HIROSHIMA

陸協ひろしまニュース  
一般財団法人 広島陸上競技協会

第94号

R2.3.30発行



広島実業団を代表する

「顔」として

相葉直紀

チームをまとめて力走する

## 陸上の強豪校とは無縁の異色のランナー

## 相葉直紀

長距離

中電工

Aiba Naoki

**プロフィール** | 相葉直紀(あいば・なおき)／身長180cm／体重58g／1991年(平成3年)1月24日生まれ・広島市  
1996年(平成8年)美鈴が丘小学校入学→2002年(平成14年)美鈴が丘中学校入学→2005年(平成17年)基町高校入学→2008年(平成20年)広島大学入学

**主な成績** | 2016年 全日本実業団対抗陸上競技選手権大会 5000m 13分56秒47  
2019年 八王子ロングディスタンス 10000m 28分16秒76  
2020年 全日本実業団ハーフマラソン大会 ハーフ 61分42秒  
2020年 全日本実業団対抗駅伝競走大会 3区 37分51秒(区間新)



大星 第25回全国男子駅伝



秒の大差が開いていた。それでも「突っ込むしかない」と懸命に前を追い、疲れが出た後半も歯を食いしばって粘った。最後は顔をしかめ、16位でゴールテープを切った。区間順位は24位。「力不足を実感した。急きょという形ではあったが、地力があればしっかり走れたと思う。3位や入賞に貢献できなかったのが悔しい」。責任を背負い込んだ。

全国トップ級の長距離ランナーとしては、異色の道を歩んできた。基町高一広島大の経歴は誰もが認める「秀才ランナー」だが、本人は「自分はエリートじゃない。昔から打倒関東を意識してきた」と言い切る。反骨心と雑草魂を隠さない。高校1年までは野球部に所属し、2年から陸上部に転身。3年時の中国高校選手権3000mSCでは7位に入り、広島大時代には全日本大学駅伝で力走するなど片鱗を示した。だが、箱根駅伝で活躍した出岐雄大(青学大―中国電力)や菊地賢人(明大―コニカミノルタ)ら同級生と比べると、全国での知名度は乏しかった。

近年、広島の大学出身者が実業団で活躍したケースは少ない。だが、中電工は高校時代からその素質と性格に着目し、練習にも参加させてきた。松長監督は「自分で考えて走れるのが彼の強み。それが安定感につながっている」と信頼を寄せる。2013年の入社以来、地道に重ねてきた努力が力強く実りつつある。

歩みを止めるつもりはない。既に日本選手権の10000mの参加標準記録を突破し、4年ぶりの大舞台への出場が濃厚。来年の全日本実業団駅伝に向けても「チーム全員が伸びてきているので、しっかりと力を出せるようにしたい」と主将の自覚もにじませる。異色の経歴を持つ29歳が今季、どんな色の花を開かせていくのか。目が離せなくなってきた。

text by K

ながら2020年を迎えた。

元日決戦。チームの期待の大きさを示すように、5年連続で務めてきた1区から、初めて主要区間の3区を任された。20位でたすきを受けると、ハイペースで前を追走。13.6kmで12人を抜き去り、従来の区間記録を1秒上回る37分51秒で駆け抜けた。区間3位。市田宏(旭化成)や菊地賢人(コニカミノルタ)といった強豪チームの主力や、藤川拓也(中国電力)や森田歩希(GMO)ら箱根駅伝で活躍したランナーも抑えた。「なかなかこのレベルでの試合では結果を残せなかった。自信になった」と上州路に確かな足跡を刻んだ。

勢いに乗る相葉に「大役」も巡ってくる。ひろしま男子駅伝で広島県チームの主将を務める予定だった藤川の故障を受け、大会8日前に代役の要請を受けた。ピークを元日に合わせて調整してきたランナーにとって、簡単ではない決断だ。だが「故郷の代表に選んでいただけるのは光栄」と心身を奮い立たせた。29歳での初代表はきわめて異例。中電工の選手が主将を務め



るのも、現監督の松長信也氏以来、18年ぶりとなった。

「先頭を目指して果敢に攻めたい」。主将、アンカーとして誓った思いとは裏腹に、当日は苦しいレース展開となった。1区2位スタートから徐々に順位を落とし、たすきを受けた時点で18位。入賞ラインからは40

「非強豪校」の出身で29歳の遅咲き。広島で生まれ育った異色ランナー相葉直紀(中電工)が今、鮮烈な輝きを放っている。元日恒例の全日本実業団対抗駅伝では3区で区間記録を上回り3位と快走。全国都道府県対抗男子駅伝(ひろしま男子駅伝)に急きょ招集されると、主将としてチームをまとめて7区でも力走。広島実業団を代表する「顔」として、確かな存在感を築きつつある。

躍進のきっかけとなったのは昨夏だ。北海道での合宿を通じて「安定して練習ができた。故障しなかったのも大きい」と土台づくりに成功。生涯の伴侶を得るなどプライベートも充実し、ホクレンディスタンスチャレンジ第2戦の深川大会10000mで優勝。11月の中国実業団駅伝は3区区間賞でチーム過去最高の2位に貢献すると、同月の八王子ロングディスタンス10000mで4年ぶりに自己ベストを更新する28分16秒76の好タイムをマーク。「今までと比べて高いレベルで走ることができている」。成長を実感し

# 天皇盃

## 第25回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会を終えて

《総合成績》  
16位

●開催日／2020年(令和2年)1月19日(日)  
●開催会場／広島県広島市



大会10日前に一般の7区藤川選手が「仕上がりが良くなく状態が上がらない、高校生も6日前に5区倉本選手が「足が痛く走れない」との報告を受け急遽、中電工の相葉直紀選手、世羅高校の新谷紘ノ介選手へ出場を依頼したところ、幸いに本人、所属先から快諾をいただき選手変更となった。レースは1区中野が先頭と1秒

差の2位と最高の滑り出しを見せ3区、4区では一時は先頭を走ったが、急遽起用した5区新谷に全く精彩がなく、起用が裏目に出る結果となった。

以降は失った流れを最後まで引き戻すことができずに16位でレースを終えた。高校・一般のエース区間に変更しなければならぬ状況で選手に多くを望むには無理がある。選手のコンディションは選手自らと所属チームに任せるしかないのが実情であり混成チームのもろさでもあるが、選手を急遽変更しても戦力が変わらない選手層を厚くしていくことも課題である。頂点に立つ道は険しい。

広島県男子チーム 監督 岩本真弥



タイム／2<sup>19</sup>'53"

1区	2位	19'47"	中野 翔太(世羅高)
2区	13位	8'40"	小島 悠生(磯松中)
3区	6位	24'01"	吉田 圭太(青山学院大)
4区	18位	14'32"	吉本 真啓(世羅高)
5区	31位	25'34"	新谷紘ノ介(世羅高)
6区	30位	9'03"	村上 響(廣取中)
7区	24位	38'18"	相葉 直紀(中電工)



順位を落とさなかったため、3つ順位を落としてしまい悔しかったです。それでも先生や先輩方が優しい言葉がけをしてくださったので、高校では1年生から都大路の舞台で走ります!

磯松中(3年)  
小島悠生



毎年「鬼門」と言われる1区を担当して、少しでも前の順位で2区にタスキを渡すのが自分の役割だと思っていたので、責任は果たせたと思います。でも、1秒差の2位だったことに悔しさが残ります。

大学進学後は、吉居君(仙台育英高)や世羅高校での梶山先輩と切磋琢磨して、箱根駅伝で走ることができるように努力を続けていきます。

世羅高(3年)  
中野翔太



優勝できなかったのですが、個人としては最低限の走りができたと思います。来年は必ず優勝できるように走ります。これからも応援よろしく願います!

青山学院大(3年)  
吉田圭太

# 皇后盃

## 第38回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会を終えて

《総合成績》  
18位

●開催日／2020年(令和2年)1月12日(日)  
●開催会場／京都府京都市



タイム／2<sup>21</sup>'15"

1区	22位	19'57"	江口 美咲(エディオン)
2区	39位	13'33"	平岡 美航(立命館大)
3区	22位	9'57"	板岡 侑花(仁方中)
4区	28位	13'43"	大崎ななみ(西条農高)
5区	21位	13'47"	神笠 知子(世羅高)
6区	8位	13'21"	谷本 七星(舟入高)
7区	18位	13'12"	山際 夏芽(世羅高)
8区	25位	10'38"	東 一葉(大和中)
9区	17位	33'07"	田村 紀薫(日立)

エディオンが活動の拠点を大阪に移されて、広島県で起用ができないことが判明した。また実業団選手で広島県出身者は限られており、一般の選手選考に頭を悩ませた。プリンセス・クイーンズ両駅伝で好走していた、日立の田村紀薫選手とエディオンの江口美咲選手に出場を依頼したところ両名および両社から快諾いただき、「これでチーム編成ができる」と胸を撫で下ろした。駅伝は「流れに乗れるか、乗れないか」によって順位が大きく変動する。女子駅伝の平均年齢が若いチームは1区が流れを決める。1区の順位がゴールした順位に近い傾向にある。男子にもいえることであるが、力のある一般選手を招聘することが監督の一番の仕事である。また中高生の選手選考には公平性を期す事も重要となる。

従って今年度は、特別な選考会がなく駅伝でも違う区間を走り、トラック競技でも別種目で走る機会が多い高校について男子は5000m、女子は3000mでの今年度の自己記録順に選考することとした。

同じ種目で同じレースを走る機会が多い中学生は年間の競技成績と男女共に3000mの今年度の自己記録をポイント制で換算して順位をつけて選考した。次年度に向けて、年度当初に選考基準を明確にして選考できれば良いと考えている。

レースは1区江口の順位(21位)をキープしてアンカーの田村で順位を上げる想定であった。途中区間では順位の上げ下げやタスキの受け渡しミスもあったが最終的には目標としていた10位台は確保できた。

広島県女子チーム 監督 岩本真弥

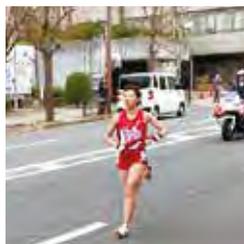


この度、第6区を走らせて頂きました。今年の広島県の目標は10番台で、個人の目標は区間1桁でした。

この大会はずっと目標にしていた大会の一つだったので、走る前はやはり少し緊張しました。しかし、手厚いサポートやたくさんの沿道の声援で楽しく全力で走り抜けることが出来ました。

私は昨年の冬から夏にかけて故障していて、今年度の多くのレースは苦しみました。それでも熱心に指導下さった春成先生を始め、多くの方々の支えで復調することができ、今大会で個人の目標を達成することが出来ました。来年もまたこの大会に出場し、更にチームに貢献出来るように頑張ります。また、選手のために色々下さった、監督、コーチの方々、応援して下さいました皆さんに感謝します。

舟入高(2年) 谷本七星



↑第2区／平岡美航(立命館大1年)



↑第5区／神笠知子(世羅高2年)



↑第7区／山際夏芽(世羅高2年)



私は今回の都道府県駅伝で第8区を走らせていただきました。

順位を落としてしまい改善点はたくさんあります。しかし、監督やコーチ、顧問の先生などにアドバイスをもらい、また、地域の方々や友だち両親、沿道の方々などにたくさんの応援を頂き、楽しむことができました。ありがとうございました。今回の駅伝では3年間2人で頑張ってきた友だちと一緒に走れなかったことが心残りです。

今後は、都大路でリベンジできるよう、高校でも頑張りたいです。

大和中(3年) 東一葉

男子:第70回  
女子:第31回

ALL JAPAN  
HIGH SCHOOL  
EKIDEN

# 全国高等学校駅伝競走大会を終えて

●開催日 / 2019年(令和元年)12月22日(日)

●開催会場 / たけびしスタジアム京都

男子

《総合成績》

12位



12位という結果に終わってしまい、残念ですが、一人一人が力を出し切ったので悔いはありません。優勝という結果を残すことはできませんでしたが、1、2年生が絶対に借りを返してくれると信じています。

男子主将 倉本元太

タイム / 2°03' 31"

1区	35位	30'35"	倉本 玄太
2区	4位	8'09"	吉本 真啓
3区	3位	23'44"	中野 翔太
4区	8位	23'21"	ジョンムワニキ
5区	8位	8'44"	吉川 響
6区	11位	14'39"	塩出 翔太
7区	3位	14'19"	新谷紘ノ介

選手は本当によくがんばり、100%の力を出し切りました。うまくいかなかったのはコンディショニングを含めて指導者の責任です。この悔しさをチームで共有して、来年はもっと「強い」チームを作って、必ず優勝できるように努力を続けていきたいと思っています。

男子監督 大工谷秀平



女子

《総合成績》

12位



目標の順位には届きませんでしたが、まだ来年があります。この悔しさを無駄にすることがないように、また一からやり直していきたいと思っています。

女子主将 山際夏芽

タイム / 1°09' 30"

1区	20位	20'32"	山際 夏芽
2区	1位	12'15"	テレシア ムツノーニ
3区	13位	10'02"	加藤 小雪
4区	23位	10'00"	永地由香里
5区	16位	16'41"	神笠 知子

選手は本当によくがんばり、自分の持っている力を出し切りました。1、2年生が主体のチームですが、来年につながるレースができたと思います。選手ばかりでなく、サポートに回った仲間たちとともに来年に向けて頑張っていきたいと思っています。

女子監督 中川久枝



第27回

ALL JAPAN  
JUNIOR HIGH SCHOOL  
EKIDEN

# 全国中学校駅伝大会を終えて

●開催日 / 2019年(令和元年)12月16日(日) ●開催会場 / 滋賀県希望が丘文化公園芝生ランド

男子

《総合成績》

21位

東広島市立  
磯松中学校



私たちは、昨年、中国中学校駅伝競走大会で3位でした。その結果から、「来年は優勝して全国に行く」という気持ちが芽生えました。それからの練習は、選手一人一人が仲間へ負けまいと思いつつも、一つの目標に向かって協力して練習に取り組みました。設定されたペースよりも速いペースへのチャレンジや、速いジョグが出来るようになり、県大会では念願の優勝をすることができました。全国出場に向けて、さらに意識が高まり、「もっと速いペースで走ろう」とお互いに励まし合い、全国を迎えました。一人一人が必死に走り、結果は21位。とても悔しい結果でした。多くのメンバーが泣きました。ここまで必死にやっただからこの悔し涙でした。この21位は、僕たちにとって、とても意味がある結果になったと思います。これから、1、2年生は更に成長し、3年生はそれぞれの道で必死に挑戦し、頑張っていこうと思った全国大会でした。

東広島市立磯松中学校 陸上競技部 主将(3年) 小島悠生



↑4区を力走る / 小島悠生(3年)

改めて感じさせてもらった。全中駅伝本番では、その独特の雰囲気やレベルの高さから、残念ながら思うような結果を残すことは出来なかった。しかし、全国の舞台を経験させていただいたことは、生徒のこれからの大きな影響を与え、人生における目標や教訓を示してくれたことは確かである。また、全中駅伝出場に際して、地域や保護者の皆様、ご支援いただいた関係者の皆様には、心から感謝している。そして、ここまで私自身を成長させてくださった東広島市の地域性、陸上競技の指導に際して助言してくださった諸先輩方にも感謝の気持ちを伝えたい。

東広島市立磯松中学校 監督 有木基子

女子

《総合成績》

7位

三原市立  
第五中学校



今年1年生が3名入部し、4年ぶりに部内でチームを組むことができました。1からのスタートだったので思うようにまとまらず、キャプテンの大変さを改めて感じました。しかし、駅伝シーズンになるとチームの絆が一層強まり、そして迎えた県駅伝では、女子部員7人全員の見事優勝することができました。私たちの挑戦は、ここから再び始まりました。「全国中学校駅伝大会までの1ヵ月間でどう自分自身を強くするか」をそれぞれが考え、目標の「8位入賞」を1人1人が意識して練習に取り組みました。また、保護者の方々、いつも熱心に指導してくださる先生、一緒に切磋琢磨しながら練習している男子部員に感謝の気持ちを持ちながら、1回1回の練習をより大切にしてきました。全国大会では1人1人が「後ろで待っているチームメイトのために!」という思いを持って、笑顔で真剣に走り切った結果、「7位入賞」という素晴らしい結果を残すことができました。最後に、この全国大会での経験を糧に3年生は高校でもさらなる飛躍を目指していきます。1、2年生は大きな目標を胸に、これからも部員全員で新しい挑戦をしていきますので今後とも応援よろしくお願ひします。

三原市立第五中学校 陸上駅伝部 主将(3年) 立花成奈



↑5区を力走る / 立花萌成子(1年)

部内でチームが組みあがった3年間。バスケットボール部・バレーボール部・テニス部からの応援をもらい、たすきを繋いでくれた旧3年生6名の走りがあったからこそ9年ぶり3回目の全国切符である。昨年の県駅伝は18位。今年は新1年生が3名入部してくれ、部内でチームを組むことができた。「全国への挑戦」を合言葉に練習を積み重ね、みんなの力で全国切符を掴みとった。唯一の3年生部員である立花主将の強い思い、保護者の方々の絶大な支援の賜だと思っている。さて、全国大会では三原第五中女子としては初めての入賞を果たすことができました。広島陸協をはじめ、関係各位に感謝申し上げる。レース展開や選手の思いについては、以下の中国新聞の記事を抜粋。

「女子の三原五は全区間で役割を果たし、7位に食い込んだ。県予選3区区間賞の青木が直前のインフルエンザの影響で4区に回り、試合前日に登木監督が漏らした本音は「目標10位台」。全員駅伝で指揮官の目算を上回った。1区高橋は19位発進ながら、8位とは10秒差。2区森安は「目指す相手がいてちょうどいい」と力強く前を追う。区間賞の快走で13人を抜き、6位に押し上げた。監督は「安定感を買った高橋は十分な走り。森安とつづいた流れが入賞につながった」とたたえた。3区岡田は「県予選は4区で不満足な走り。原因となった貧血を治し「力を出せた」。区間7位の好走で5位に浮上。「最低限の走りを」と青木が9位で踏ん張る。アンカー立花萌は区間2位の力走で順位を二つ上げ、合言葉の「心のたすきリレー」を実現した。」

義務教育下での部員確保、選手の体調管理など考えさせられる全国大会だった。もう一度原点に戻り、これからも子どもたちと一緒に夢を追いかけたい。

三原市立第五中学校 監督 登木治臣

## 年代別レポート

### 小体連

子供達の基礎体力向上にと地元の有志たちで立ち上げられた当クラブも今年で40周年を迎える。御野体育会・御野陸上教室として1980年設立、94年に現代表の細羽が引き継ぎ99年に現在の御野陸上クラブとなった。部員ほとんどが同学区の御野小学校児童であることから、学校・町づくり連合など地域諸団体と情報共有し健全育成を含め活動、地域交流を深めている。設立当初十数名の部員が、現在102名を有するまでになったことは地域の方々の陸上競技へのご理解の賜物と感じている。

今年度のクラブ実績は各大会で優勝や入賞、第35回全国交流大会男子コンバインドAで出場した藤井亮太は7位入賞を果たし、男子80mHの広島県記録を更新した。各大会で選手達がベストをだせる環境に尽力した陸協の先生方、指導者応援の方々そして共に競技した選手たちに厚くお礼を申し上げるとともに、今後も子供たちが陸上競技を楽しめるようスタッフ一同努める所存である。

御野陸上クラブ総務兼コーチ  
原田 芳彰

### 中体連

代表選手が活躍した、皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝、天皇盃全国都道府県対抗男子駅伝、中国女子世羅駅伝と続いた駅伝シーズンもひと区切りがつき、トラックシーズン開幕の記録会に合わせ、部活動の練習に励んでいた生徒たち。

全国的な新型コロナウイルスの感染拡大の影響から3月14、15日開催予定であった第54回織田幹雄記念国際陸上競技大会の代表選考を兼ねる広島県中学生陸上記録会が中止となった。1、2年生にとって、地道な冬季トレーニングを乗り越えその成果を試す記録会と位置づけていた生徒が多いただけに残念である。体力維持のため、家の中で体幹トレーニングや、夕方家の周りを走っている中学生をよく見かけたとの地域の声もある。できるだけ早く新型コロナウイルスの流行が終息し、通常の生活に戻ってほしい。学校に活気が戻り、一人ひとりの生徒が陸上競技を楽しみ熱く燃え、仲間と共に笑える生活が一日でも早く来るよう願うばかりである。

東広島市立高屋中学校  
鈴木 晶雄

### 高体連

トラック&フィールドのシーズンを終えて、駅伝、ロードレースのシーズンに入った。12月22日(日)に京都府都大路で行われた全国高校駅伝には、男女ともに世羅高校が出場。男子は1区が苦戦したが、その後の2区吉本と3区中野が好走し上位をうかがう位置まで浮上。しかし、その後なかなか前との差を詰めることができない展開で、逆に後半は後続に追い込まれて最後は12位でゴール

した。女子は2区のムッソニーが16人抜き区間新記録の快走で4位に浮上したが、その後も入賞圏内で我慢しつつも12位でのゴール。残念ながら男女とも入賞に手が届かなかった。

トラック&フィールドでは、冬期練習の最中ではあるが来シーズンを視野に室内陸上が開催される。2月1日(土)・2日(日)に大阪城ホールで行われた2020日本室内陸上競技大阪大会においては、女子U18 60mYHで浅木都紀葉(広島皆実高)が大会新記録で優勝。その他にも男子U20走幅跳で井町慶太郎(山陽高)が6位、同三段跳で末盛巧(修道高)が3位、女子U20走幅跳で本多佑莉(神辺旭高)が2位、男子U1860mJHで栗野宙歩(広島皆実高)が7位、同棒高跳で綾大心(近大東広島高)が5位と、計6名が入賞。1・2年生の出場者は来年のインターハイ路線に弾みをつけた。また、3年生についても新たなステージでの活躍を期待したい。

広島県高体連陸上競技部 事務局長  
五日市高校 野崎 秀和

### 学生連盟

#### 広島県学連の今年度の振り返り

この1年を振り返ってみると、県学連全体を通して「成長」を感じられた1年だった。

4月に入学した新1年生の活躍により、上級生は「負けてられないぞ!」という刺激を受け、全体の底上げに繋がった。その結果、中国四国学生陸上競技対抗選手権大会(中四国インカレ)での優勝者の続出や日本学生陸上競技対抗選手権大会(全日本インカレ)の出場者の数が昨年度と比べて約2倍になったのだ。

来年度以降は今年度よりも多くの選手が全国の舞台で活躍、世界の舞台で活躍する人が出てくるように願いたいと思う。

また今年度において、自分たちの大会以外でも審判や補助員の仕事を任せてもらった。これらの仕事を全うできたのも、県学連に加盟する各大学の学生たちの協力があったからこそである。運営する側に立ち、競技者としては見えなかった陸上競技の良さを知ることができ、ますます好きになった。

私自身、昨年の4月に県学連幹事長に就任して早1年、退任する時期となった。振り返ってみると、私自身だけでは乗り越えることができず、多くの皆様から多大なご支援とご協力を頂いた。今まで多大なるご支援・ご協力を頂いた広島陸上競技協会の先生方、広島県学連加盟校の学生の皆様を始めとした各団体の皆様に感謝の意を表して終わりの挨拶とさせていただきます。

中国四国学生陸上競技連盟 広島支部 幹事長  
広島修道大学 合田 智哉

### 実業団連盟

#### 全日本実業団ハーフマラソン大会

2月9日(日)に山口市の維新みらいふスタジアムを発着として「第47回全日本実業団ハーフマラソン大会」が行われ、広島県の実業団チームからも多数の選手が出場した。

レースは序盤から外国人選手が飛び出す中、日本人選手で集団が形成され15キロ過ぎまで20人程の集団で進み、好記録も期待できる展開となった。当連盟からは、マツダの延藤選手が最後まで日本人トップ集団でレースを進め、1時間00分59秒で7位入賞となった。

また、延藤選手を含めて7名の選手が1時間02分を切る好記録でゴールし、選手個々でも確実に力が付いている事を実感する大会となった。2020年はオリンピックイヤーであり、当連盟の

チーム・選手に更なる飛躍を期待したい。

広島県実業団陸上競技連盟 事務局  
マツダ 江頭 健太



↑延藤潤(マツダ)

### マスターズ連盟

#### 令和元年締めくくり

令和最初の総会(1月26日開催)前年度の活動報告と新年度の活動計画案を協議した。

令和元年を振り返ってみると、3月中国マスターズ駅伝(庄原市)男子の部で5年ぶりの優勝から始まり9月第40回記念国際・全日本マスターズ陸上選手権大会が群馬県で開催、1位には神田直季(400m)・大石博暁(円盤)・澤田孝弘(幅跳)2位9名・3位8名・リレー 3位・メダル総数21個。

9月中国マスターズ混成大会(津山市)芦原広美(W45)、五種競技で優勝(日本新記録)、10月全日本マスターズ混成大会(小田原市)澤田孝弘(M60)五種競技で優勝、各大会においても会員の素晴らしい活躍があった。12月には、日本で最大のイベント「東京オリンピック」で、5月から県内を巡る聖火リレーに、三次市の富久正さん(103歳)60m日本記録保持者、現役最高齢ランナーとして選ばれた、聖火リレーでは「多くの人を勇気づけられる走りが見たい」「前を見て、一生懸命走って完走したい」と熱く語っていた。

100歳を超えても、応援する仲間と健康で楽しく走り続けられている会員のヒーロー富久正さんは生涯スポーツとして陸上を選び、長寿国日本の、人生100年時代を生きるお手本だ。

県内のアスリートの皆さん、生涯スポーツとして、これから通る、行く道として、マスターズ陸上への参加を期待しています。

#### ●大会結果は

広島マスターズ陸上HPをご覧ください。

ホームページアドレス

<http://www.34hmr.com/>

広島マスターズ陸上 広報  
磯村 公三



# CHUGOKU WOMEN'S SERA EKIDEN

## 2020 中国女子世羅駅伝競走大会を終えて

●日時／2020年2月16日(日) ●開催場所／世羅町



2020年2月16日、正午、小雨の中、オープン参加2チームを含む全27チームがスタートした。大会運営に当たっては、今回より第3中継所において繰り上げ出発を実施した。折り返し地点ということもあり、様々な心配が予想されたが、大会関係者の皆様方のご協力により、雨の中ではあったが全チーム無事ゴールすることができた。参加者においては、2016年5区区間新記録、2018年3区区間新記録の好記録で世羅陸協Aを優勝に導いた小吉川志乃舞(世羅高→ユニバーサルエンターテイメント)がラストランであった。

多くの皆様方の多大なるご支援・ご協力のおかげでこの大会が運営できることに感謝し、これからも女性審判員を中心としてきめ細かな心遣いを忘れず、より良い大会となるよう努力していきたい。

スタート・ゴール主任 中川久枝



合宿から広島市全体としてチームワークよく練習できたこと、これまで経験を積み重ねてきた選手たちがそのことを伝えてきたことが勝因であると思う。また、故障者もなく想定通りのオーダーでレースを進められたことも大きい。今回の経験を来年度以降に生かして、来年度以降に臨みたいと思う。

優勝監督・広島市陸協A 荻隈敏之

最優秀選手賞



区間賞をとれるとは思っていませんでしたが、チームメイトをはじめとして沿道の声援のおかげで力を出し切ることができ、このような賞を受賞できてうれしく思っています。来年も参加して、チームに貢献できるように頑張っていきたいと思えます。

呉市体協A ダイソー 平村古都

ドリーム賞



雨で走りにくかったけど、前にいる選手を追いかけ、抜かれても離されないように食らいついていきました。前日の刺激で調子がよく、その状態を維持することができました。今年度は全国大会のメンバー入りができなかったので、来年度はこの経験を自信にして主力として活躍していきたいと思います。

東広島市体協 松賀中(2年) 山田依菜

### 天皇盃

## 第25回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会にて

企画広報副委員長 奥村恵美子

走ることが好き、歩くことが好き、  
走る人を応援することが好き、  
ワクワクするその気持ち  
そう！あなたも陸女!! RIKU★JO



皆さんこんにちは。

広島陸上競技協会 Team陸女です。

今年もここ広島の地で25回目を迎える全国都道府県男子駅伝が行われました。走ることが好き、走る姿を応援することが好き、陸上競技に興味をもってもらいたい!競技場やロードで本物の走りを見てほしい!そんな女性を増やしたい想いから“陸女”活動がスタート!昨年に引き続き、広島東洋カープとのコラボレーション缶バッジを製作し、男子駅伝を応援しに来ていただいた多くの皆様へ缶バッジをお渡しすることができましたよ。

今年度はカープ女の子にハードルとリレー競技のデザイン。広島は為末氏をはじめ、現役選手では木村文子選手、高山峻野選手、福部真子選手など広島出身のハードラーを多く輩出しています。

また、100mでは山縣亮太選手も広島出身。東京オリンピックには個人種目に加えてリレーにも出場して欲しいという期待があります。2020年は広島出身の選手がより活躍することも



願い製作させていただきました。

大会当日は、缶バッジお渡し予定時間よりも随分早くから、多くの方にお並びいただき本当にありがとうございました。これだけの反響があることにありがたく感謝の気持ちです。

大会は、6位の茨城県までが大会新記録という高速レースで、長野県が8度目の栄冠を勝ち取りました。出身都道府県の誇りと名誉をかけて中学・高校・大学・一般の選手たちがONE TEAMとなり襷を繋ぎ栄冠を目指す広島男子駅伝。

来年の26回大会は2021年1月24日(日)です。選手たちの駆け引き、息づかい、



鼓動、速さ…は現場でしか味わえない醍醐味。来年も陸女の皆さんの沿道での熱い応援をよろしく願っています。



### 青少年の夢を応援します!

(順不同)

#### 青少年健全育成協力企業

- 株式会社ツルハグループ  
ドラッグ&ファーマシー西日本
- アシックスジャパン株式会社
- 朝日医療専門学校広島校

- 中国電力株式会社
- 広島管公学生服株式会社
- 青山商事株式会社
- デサントジャパン株式会社
- 有限会社道後山高原サービス
- 株式会社中電工
- 広島駅弁株式会社

- 株式会社広島銀行
- 株式会社もみじ銀行
- 広島電鉄株式会社
- 株式会社合人社グループ
- 大塚製薬株式会社広島支店
- 株式会社 BTM
- 学校法人石田学園

- 広島ガス株式会社
- 株式会社体育社
- 株式会社ニシヒロ
- 株式会社ニシ・スポーツ
- 広島文化学園
- COCOKALA GROUP
- T&T WAM サポート株式会社

- T&T タウンファーマ株式会社
- T&T ネットワーク株式会社

#### 特別協力企業

- ミズノ株式会社
- 株式会社キリンビバックス